C. 評価小委員の位置づけ

班会議の日程は全く評価小委員の都合も考慮せずに決定されており、評価小委員を軽視しているとの御意見もありましたが、これも評価小委員の位置づけが明らかでないためともいわれております。これを改善するためにどのような方法をとるのがよいでしょうか。 25 ：特定疾患に関する評価研究班の分担研究者とする。

○効果疑問。

○評価の分担研究。

班会議の日程は全く評価小委員の都合も考慮せずに決定されており、評価小委員を軽視しているとの御意見もありましたが、これも評価小委員の位置づけが明らかでないためともいわれております。これを改善するためにどのような方法をとるのがよいでしょうか。

26 ：評価が一致して一定以下になった場合は途中年度でも見直しを行えるなど権限を強化する。

○ある程度必要かとは思いますが、研究費が高いことと連動すべきでしょう。

班会議の日程は全く評価小委員の都合も考慮せずに決定されており、評価小委員を軽視しているとの御意見もありましたが、これも評価小委員の位置づけが明らかでないためともいわれております。これを改善するためにどのような方法をとるのがよいでしょうか。

27 ：その他（ご提案があればお書き下さい。）

○評価小委員の位置づけは行う必要は特にないと思います。班長が評価小委員と必ず日程の調整を行うことを義務づけたらよいと思います。

○評価に対する主任研究者の見識を高めるようにすればよろしい。

○評価委員の役割をはっきりし、何をしなければいけないかを明確にすれば、自から日程調整の必要性の有無がわかかるようになるのではないか。

○評価小委員は採点係であり、それによって上部委で方針を決めるのならそれもでよい。ただし、お互いに他の委員がどのように評価をしたか、また、上部委がそれをどのように利用したかの小委員への feed back が必要ではないか？

○評価小委員に日程を聞いて、最大多数で調整するのは当然と思う。

○現行でよい。

○小委員を含む評価委員の研究班に対する作業・権限など明文化されたものを、あらためて班長に配布し、役割を再認識してもらうことから始める。

○個人的に出席できない理由は色々あるのにしても、出席率のよくない小委員は辞退して頂くルールを作るのが先決ではないか。

○研究班長が評価委員の日程を参考にするよう求める。

○評価小委員が必ず出席できる日を選んで班会議を行うようにすればよい。

○班会議に出席できる方が望ましいが、評価は班会議とは別の場で行うことが重要。

○評価委員の数を増やし、より公正な評価をする。また、26 も加える。

○・評価委員のため、研究費の取れる班員になれない。すなわち、ボランティアとなっているのは問題です。
・過去に主任研究者をやった人も重要。

○情報公開の時代であり、小委員会も統一した見解のもとでの評価が必要なので、もっと会議をもつなどして、認識を改めることが求められるのではないか。

○現行でやむ得ないと思う。

○上述Ｂと同じ。

○のままでもよいと思います。

○評価会議で委員が質問あるいはコメントする。

○現行でよい。

○現状でやむを得ない。

○ 結果を評価委員に報告するべき。

○班会議の日程をできるだけ早く決め、直ちに小委員が知らせるくらいでよい。

○上述のように日程を 10 月頃から分散し、1 年前から予定がわかれば、我々の負担が軽くなる。

○交通費の計算、書類まで評価小委員個人にやらせるのは大変迷惑である。これくらいなら、交通費を初めから支給しないと明記しておいた方がよい。委員に迷惑にならなければ、位置づけなどというのでもよい。

D.　評価の開示

従来、明らかな形で評価は開示されておりませんでしたが、各班に還元するためにも今後は開示する必要があると考えます。この方法として 28 ：個別の班名をださずに総括的にコメント中心にまとめていく。 29 ：評価小委員長が、4名の委員のまとめをして開示する。 30 ：班名は明らかにするが評価内容が4人の委員の誰によるかは明らかにしない。 31 ：班名も各評価小委員の氏名も明らかにしていく。

○初めは 30 でよいだろうが、小委員が十分に納得できる情報が与えられるならば、31 に移行する。

○28or30

○委員長は各小委員の了承を得てから開示するべきである。

○各評価委員の個人差を明らかにする。

E.評価班より提言いたしました「特定疾患対策研究事業に対する評価票に関する資料」について 32 ：役に立った。

○多少（班長の評価が高すぎる）。

E.評価班より提言いたしました「特定疾患対策研究事業に対する評価票に関する資料」について

33 ：役に立たなかった。

理由

○本制が猫の目のように変わり、さらに当資料に対する証明が不足だった。班会議が終わって、しばらくしてから到着したものがあり、委員は何がなんだかわからない。

○研究のまとめとしては役立ったが、評価としては主観的で、厳しい自己評価をするものと全く自己肯定型とがあった。

○無駄な資料づくりはやめた方がよい。

E.評価班より提言いたしました「特定疾患対策研究事業に対する評価票に関する資料」について

34 ：更に追加する項目はありますでしょうか。

○班のリストだけでなく、

❶プロトコール本文

❷データマネージメント部門とその構成

❸モニタリングレポートと集計結果

は添付して頂く必要があります。

○評価票の⑥⑨⑫に対する項目を設けて欲しい。

F.評価小委員のコメントより指摘の多かった項目について、下記の項目を設定する必要があるでしょうか。（必要とお考えの番号に○をおつけ下さい。）

35 ：主任研究者より班員への班の目的の周知徹底
36 ：班内の協同研究の状況
37 ：班員の専門領域のバランス

質問自体に対するコメント

○設定の必要はない。

○ご質問の意味が少しわかりかねますので解答保留致します。

○主任研究者が考えることだと思います。

○目的より、自分たちが行っている研究をこじつけて(？)研究成果としているむきがある。やはり、班員に対して主任研究者は強力な指導力を発揮すべきである。

G.大変有り難うございました。よりよい評価票を作成するために、先生の御意見がございましたらお書き下さい。

○評価票の「その他」の項目にでも「班員の構成」について評価する細目を作ってください。

○基礎的な研究が班研究内に入ってくる場合、その疾患との関連について常に意識させる必要があると思う。病態のどの部分、もしくはプロセスに関する研究かの位置づけを言語化させる必要あり。科研費との違いをより明確にするべき。

○この評価研究班における小委員会委員の役割がどうもはっきりしないという印象をもっています。

○正直言って、現在評価を要求されるものは数多く、小委員の多くは多忙な現職にプラスαの形で評価業務があり、いくつも重なると全く身動きがとれなくなると思う。評価システムをどうするかは全日本的に検討されるべきだろう。また、評価がどのように利用されるべきかというシステム論の議論はどれだけされているのだろうか。

○まとめた意見に不一致が多ければ、一度調整が必要。

○「評価研究班」の性格について、

❶この班は特定疾患の数ある研究班の評価の仕方を研究する。
評価票の作成や小委員の選定の適否を含め、小委員集団の行動そのものが研究対象なのか。

❷特定疾患各種研究班そのものを評価する。
特定疾患所管課長の意図を受けて、小委員の評価をまとめ、それが行政上で班の存亡や予算増減の決定に生かされているのか。

坂根班長時代の「評価班」の報告書を散見させてもらったが結果、印象に残っていない。

○評価委員が出張する時に、出張しにくい。例えば、領収書の保存や航空券の保存などが多すぎて、つい紛失してしまう。

○評価委員は、現役でなくとも、前・元の先生方の中にも適切な方が居られると思う。そういう方々のグループを作っていただき、そこから人材派遣してもらうことにより、より踏み込んだ評価がなされるのではないか。自分自身、退官後には時間の余裕もできるであろうし、むしろ進んで従事してみたい。

○この新制度になってから、各班の研究内容・成果は飛躍的に進歩している。しかし、一部には評価が悪くとも班は存続するとの思惑があり、評価の悪い班、実行の挙がっていない班は、その領域内で別のテーマと交代させる努力、資源配分を考慮することが重要。評価だけに終わってはむなしい。

○評価は重要な機能であり、疎かにできない業務である。その業務に対する評価や権限を強化する必要があると考える。また、評価する側も tax payer や患者の声を背に受けた責任感を持つ必要があると考えられる。

○せっかく複数の評価委員の先生が出席し、熱心に評価されていますので、評価小委員長がその意見をまとめ、その班の改善に役立てることができる方法を考えるべきだと思います。

○評価結果を研究費配分額、班員の入れ替えに充分に反映させる。

○・評価票が研究班主任研究員や班員のためにあるのか、その班の成績として継続の可否に用いるのか明らかでない。主任研究員にとっては、このような general な評価より班会議直後の口頭でのコメントが役立っていると考える。
・出席する機会の与えられていない研究班の評価は避けて下さい。

○1）評価小委員会に出席するたびに、赤字。
2）駅や飛行場へ行くまでの交通費は実費を支払うべきではないでしょうか。

[IV] 研究成果の刊行に関する一覧表

研究成果の刊行に関する一覧表

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻名	ページ	出版年
Sugawara F, Yamada Y, Kuroe A, Someya Y, Kubota A, Ihara Y, Takahashi K, Seino Y.	Human TSC-22 gene: no association with type 2 diabetes	Intern Med	40 (10)	993-997	2001
Hamamoto Y, Tsuura Y, Fujimoto S, Nagata M, Takeda T, Mukai E, Fujita J, Yamada Y, Seino Y.	Recovery of function and mass of endogenous beta-cells in streptozotocin-induced diabetic rats treated with islet transplantation.	Biochem Biophys Res Commun	287(1)	104-109	2001
Fukushima M, Taniguchi A, Nakai Y, Sakai M, Doi K, Nin K, Oguma T, Nagasaka S, Tokuyama K, Seino Y.	Remnant-like particle cholesterol and insulin resistance in nonobese nonhypertensive Japanese glucose-tolerant relatives of type 2 diabetic patients.	Diabetes Care	24(9)	1691-1694	2001
Yamada Y, Kuroe A, Li Q, Someya Y, Kubota A, Ihara Y, Tsuura Y, Seino Y.	Genomic variation in pancreatic ion channel genes in Japanese type 2 diabetic patients.	Diabetes Metab Res Rev	17(3)	213-216	2001
Shen ZP, Nishimura M, Tsuura Y, Fujimoto S, Mukai E, Yamada Y, Seino Y. †	Distinct effect of diazoxide on insulin secretion stimulated by protein kinase A and protein kinase C in rat pancreatic islets.	Diabetes Res Clin Pract	53(1)	9-16	2001
Takeda T, Tsuura Y, Fujita J, Fujimoto S, Mukai E, Kajikawa M, Hamamoto Y, Kume M, Yamamoto Y, Yamaoka Y, Yamada Y, Seino Y.	Heat shock restores insulin secretion after injury by nitric oxide by maintaining glucokinase activity in rat islets.	Biochem Biophys Res Commun	284(1)	20-25	2001
Fujimoto S, Mukai E, Hamamoto Y,. Takeda T, Takehiro M, Yamada Y, Seino Y	Prior exposure to high glucose augments depolarization-induced insulin release by mitigating the decline of ATP level in rat islets.	Endocrinology	143 (1)	213-221	2002
Ochiai K.*, Ozaki S.*, Tanino A., Watanabe S., Ueno T., Mitsui K., Toei J., Inada Y., Hirose S., Shirai T. and Nishimura H.	Genetic regulation of anti-erythrocyte autoantibodies and splenomegaly in autoimmune hemolytic anemia-prone New Zealand Black mice.	Int. Immunol.	12 (1)	1-8	2000
Tanaka M., Kishimura M., Ozaki S., Osakada F. Hashimoto H., Okubo M., Murakami M.and Nakao K	Cloning of novel soluble gp130 and detection of its neutralizing autoantibodies in rheumatoid arthiritis.	J. Clin. Invest.	106(1)	137-144	2000

研究成果の刊行に関する一覧表

Nishimura H. and Ozaki S †	Practical approaches to determining disease-suspecptible loci in multigenic autoimmune models.	Intern. Rev. Immunol	19	335-366	2000
Ozaki S	ANCA in inflammatory bowel disease	J. Gastroenterol.	35	721-723	2000
Ma W., Ozaki S., Sobajima J., Uesugi H., Murakami M., Tanaka M., Kozuki M., Hashimoto H., Fujita Y., Kawabata D., Osakada F., Shirakawa H., Yoshida M., Hayami M. and Nakao K	Detection of anti-neutrophil cytoplasmic antibodies in MRL/Mp-lpr/lpr mice and analysis of their target antigens.	Autoimmunity	32	282-291	2000
Yahata K., Mori K., Arai H., Koide S., Ogawa Y., Mukoyama M., Sugawara A., Ozaki S., Tanaka I. and Nakao K	Molecular cloning and expression of a novel klotho-related protein.	J. Mol. Med.	78	389-394	2000
Okazaki T., Ozaki S., Nagaoka T., Kozuki, M., Sumita S., Tanaka M., OsakadaF., Kishimura M. Kakutani T. and Nakao K	Antigen-specific Th1 cell as direct effectors of Propionibacterium acnes-primed lipopolysaccharide-induced hepatic injury	Int. Immunol.	13 (5)	607-613	2001
Shibata T, Yamasaki E, Shimojo S, Mizoguchi M Ozaki S	Heterogeneity of Central Nervous System Manifestation of Sweet's Syndrome: Contribution of Underlying Behcet's Dusease	聖マリアンナ医科大学雑誌	29	519-527	2001
尾崎承一	免疫抑制薬の分類と臨床整理	今月の治療	8(5)	102-108	2000
上杉裕子、尾崎承一	血管炎症候群	Medical Practice	17(10)	1685-1688	2000
田中真生、尾崎承一	可容型gp130と慢性関節リウマチ	免疫・Immunology Frontier	11(2)	46-52	2001
尾崎承一、傍島淳子	自己免疫性肝疾患とANCA	Bio Clinica	16(5)	90-95	2001
尾崎承一	結節性多発動脈炎	毎日ライフ	6	40-44	2001
尾崎承一、田中真生	慢性関節リウマチの新規自己抗原のクローニング	組織培養工学	27 (5)	20-23	2001
橋本博史、吉木敬、尾崎承一他26名	厚生労働省厚生科学特定疾患・難治性血管炎に関する調査研究報告	日本臨床免疫学会会誌	24 (6)	336-346	2001
尾崎承一	血管炎症候群の診断と病態把握：免疫血清学的検査	「血管炎」		113-118	2001
尾崎承一	慢性関節リウマチ	知っておきたい骨・関節疾患の新たな診療		46-73	2001

研究成果の刊行に関する一覧表

尾崎承一・傍島淳子・上杉裕子・中尾一和・光岡延芳・吉田充輝	患者血清から得られる抗HMG1/HMG2抗体のエピトープ解析	厚生省厚生科学特定疾患対策研究事業、難治性血管炎に関する調査研究班、平成11年度研究報告書		127-130	2001
尾崎承一・馬　衛・傍島淳子・上杉裕子・中尾一和・三森経世・吉田充輝	MRL-lprマウスのP-ANCA対応抗原の解析	厚生省厚生科学特定疾患対策研究事業、難治性血管炎に関する調査研究班、平成12年度研究報告書		146-151	2001
高野謙二	特定疾患における医療・福祉的評価-ALS患者・家族の実態・意識調査	日本ALS協会会報		37-50	2001
内田一好、関野宏明	実験的外傷性脳損傷におけるフリーラジカル反応の経時的変化	聖マリアンナ医科大学雑誌	29（4）	375-382	2001
平本準、田中克之、平本理恵、関野宏明	悪性グリオーマにおける変異型P53とepidermal growth factor receptorの発現と予後	聖マリアンナ医科大学雑誌	29（4）	283-289	2001
渡邊寛之、関野宏明	定量的脳挫傷モデルラットに対する神経幹細胞移植	聖マリアンナ医科大学雑誌	29（4）	391-396	2001
Uchida K.,Uzura M., Oshio K., Sakai K., Hayashi T., Sekino H., Ominato M., and Owada S	A study of free radical reactions on experimental brain injury in rats	Proceeding~12th World congress of neurosurgery~		427-429	2001

［V］平成 13 年度班員名簿

特定疾患に関する評価研究班

区　分	氏　名	所　属	職　名
主任研究者	清野　裕	京都大学大学院医学研究科病態代謝栄養学講座	教　授
分担研究者	尾崎　承一	聖マリアンナ医科大学 リウマチ・膠原病・アレルギー内科	教　授
	三木　知博	東亜大学工学部生命科学工学科	教　授
	長谷川　敏彦	国立医療・病院管理研究所医療政策研究部	部　長
	高野　謙二	自治医科大学学生相談室・心理学	助教授
	関野　宏明	聖マリアンナ医科大学脳神経外科学	教　授
事務局	黒瀬　健	京都大学大学院医学研究科病態代謝栄養学講座	助　手

厚生科学研究研究費補助金
特定疾患対策研究事業
特定疾患に関する評価研究班
平成 13 年度　総括・分担研究報告書
発行　平成 14 年 3 月 31 日
厚生省特定疾患
特定疾患に関する評価研究班
主任研究者　清野　裕
京都市左京区聖護院川原町 54
京都大学大学院医学研究科病態代謝栄養学
電話（075）751-3560
印刷　アサヒ写真工業株式会社
〒105-0003 東京都港区西新橋3-25-3白樺ビル
TEL 03-3434-0635　FAX 03-3434-8385